



田中館愛橘 (1856-1952)

Tanaka Kenkichi

写真：文化勲章受章時(昭和19年4月29日) 題字：氏名サインとも田中館愛橘自署より



田中館愛橘会 会報 54号

(たなかだてあいきつ) 岩手県二戸市出身の物理学者。日本の理科系諸学の基礎を築く。文化勲章。文化人切手。東大教授。貴族院議員。地球物理学の研究、度量衡法の確立、光学・電磁気学の単位の研究、航空学・気象学の普及などに功績。日本式ローマ字論者。

博士生誕 160 年記念

悲願の田中館愛橘像が落成

市内外の寄付集まり顕彰に弾み

二戸市出身の世界的物理学者・田中館愛橘博士の顕彰する「田中館愛橘会」(工藤武三会長)は、博士生誕160年を迎える今年、記念の銅像を制作。その落成序幕式が5月21日、設置された二戸市シビックセンター前で行われ、藤原淳・二戸市長や制作者の田村史郎さんをはじめ、関係者150人が出席しました。

銅像は多くの人に親しまれた博士の人柄をイメージし、見る人と同じ目線になるよう台座を低めに設計。かつ腰掛けた姿勢とし、身近な偉人としての博士像を意識しました。左右に大きく両手を広げた姿は、会合の終わりに感謝の気持ちを込めて「どっど払い!」と声高に発声された、博士お得意のポーズを再現したものです。



田中館愛橘像 (田村史郎・作)

田中館愛橘会は昭和61年に立ち上げられて以来、その偉業に比して知られていない博士の顕彰を目的に活動を続けています。平成11年には、「二戸市シビックセンター」内に記念科学館を開設することができ、さらに地域の発信力を高めるために、銅像の建立実現に取り組んできました。平成26年に実行委員会が結成され、市内外に寄付を募ってきたところ、篤志が寄せられ、建立が実現しました。

当日、除幕式後の祝賀会では、建立実行委員会から二戸市に銅像を寄贈しました。市の中心地であるシビックセンターの入り口で、訪れる人をニコリとお迎えする愛橘博士。この像を通じて、子供たちに立志の心を伝えていければと会では考えています。

平成 28 年 12 月現在 / 田中館愛橘会 会員数 168 名 ・ 会報発行 / 年 1 回 発行予定 (印刷所・沢倉印刷株式会社)
 ・ 発行所 / 田中館愛橘会 会長 工藤 武三、編集者 中村 誠 TEL0195-25-5411 FAX.0195-23-3548
 〒028-6103 二戸市石切所字荷渡 6-2 二戸シビックセンター内 振替口座 / 02350-8-18847

ご 挨拶

田中館愛橋博士顕彰銅像建立実行委員会 久 慈 浩
実行委員長



田中館愛橋先生は今から 160 年前に私たちの町福岡（現二戸市）に生まれました。いわゆる幕末期の激動の時代に青年期を過ごされた先生は、文明開化の礎を築き近代化の先駆けともなった方です。

西洋に 100 年遅れていたといわれた時代に、武士の誇りと覚悟とを持って「西洋の近代物理学」を学び導き大きく育てました。そして、30 年ほどの間に追いつき、やがて追い越せるほどまでに発展させた田中館先生は郷土の誇りであります。日本人の誇りを命がけ

で守り抜いたその姿は、二戸の人々の精神的支えともなっております。

二戸市には田中館先生の顕彰団体「田中館愛橋会（会長、工藤武三氏）」があり、長きにわたって博士の業績と誇りを精力的に伝えて来られましたが、今般、なお「一層幅広い顕彰」のために何としても『田中館愛橋像』を建立したいという計画を聴き、熱い思いに打たれ、ご協力をさせて頂こうと決心を致しました。とはいえ、博士がお亡くなりになられてからも 60 数年経っていることから、市民からの寄付によって銅像建立を考えることは無謀との声も無いではありませんでした。果たしてと、様々な方々に博士の銅像建立を打診したところ、驚くほどに賛同してくださる方々が多く、これならば実現可能だろうと確信し、銅像建立実行委員会を発足致しました。幸いなことに関係各機関のご協力を始め、多くの企業様からもご寄付をいただく事が出来ました。市民の皆様を始め広く一般の方々、また田中館先生ゆかりの機関様からもご理解ご賛同を戴く事が出来、改めて田中館先生の偉大さを痛感いたしました。

ご寄付を賜った皆様、企業様、関係各位の皆様には心より感謝申し上げます。田中館先生のご命日である本日、こうして皆様に銅像をお披露目できますことは何よりの喜びであり、ありがたい事であります。

なお、田中館愛橋像の制作は、一戸町出身の彫刻家、東京造形大学美術学科講師である田村史郎先生にお願い致しました。田村先生は新制作協会会員及び日本美術家連盟会員で、日本各地に先生の作品が飾られております。同じ岩手県人として田中館先生への思いも深く、誠に願ってもない方に作って頂けたと思っております。

田中館愛橋像がいつまでも皆様に愛されますことを願ってやみません。改めまして皆様様に感謝を申し上げ、ご挨拶と致します。

ご 挨拶

田中館愛橋会 会長 工 藤 武 三



私達が最も敬愛する郷土の先人、田中館愛橋先生の銅像が本日落成し、除幕式が挙行されますことに心からのお祝いを申し上げます。建立にあたり、二戸市民をはじめ多くの皆様から暖かいご支援、ご協力を賜り、また、銅像建立実行委員会の皆様の郷土への熱い思いと、献身的な募金活動により本日を迎えることができました。改めて二戸市はじめ関係の皆様へ心からの感謝と御礼を申し上げます。

銅像建立までの経緯について

愛橋博士の事績をたどると、明治から大正期の、日本における近代科学の草創期の偉大なる先駆者として、幅広い業績が浮かび上がって参ります。また、東大教授退官後も国際人として多方面にわたる国際会議等に出席し国際平和・科学技術の発展および日本の地位向上に貢献されました。愛橋博士の多方面に亘る業績を受け、昭和61年「田中館愛橋会」が設立され、以来30年に亘り博士の顕彰活動に取り組んでまいりましたが、先人、先輩の汗と熱い思いが込められた銅像でもあります。

丹野幸男初代会長の永年に亘る献身的な顕彰活動は田中館愛橋記念科学館建立につながる事となりました。二代目小保内岩吉会長の「博士の銅像を建てたい」との思いは、志し半ばで病のためかないませんでした。そのあとを受けて、不肖 私が皆様にご相談申し上げたところ、地域のためでもあり少し汗をかくように、との有り難いアドバイスをいただき、おかげさまで平成26年10月に「銅像建立実行委員会」が結成され、久慈浩実行委員長のリーダーシップのもと本日を迎える事となりました。

銅像のイメージについて

偉人として見上げる形でなく、同じ目線にして台座も低めにし、かつ腰掛けた姿勢で博士に直接触れるよう身近な博士をイメージしました。両手を上げたポーズは学生への講義のあと「どうだ、わかったらう」とか、会合の終わりに感謝の意を込めて両手を広げて「どっと払い！」と声高に発声されたという愛橋博士得意のポーズということです。

愛橋博士得意のポーズで、親しみを込めて皆さんをお迎えするのがいいのではないかとまとまりました。

シビックセンターは、市民・二戸市来訪者がまず訪れたいところでありたい・・・その入口で愛橋博士がニコリと皆さんをお出迎えすることで、地域の発信力を高めると共に、博士を市民の身近な存在にしてくれるものと期待しております。また、博士像を通じて子供達に立志の心を伝えていければと願っております。

二戸市の更なる発展を念じながらご挨拶といたします。

田中館愛橘博士銅像建立に寄せて

二戸市長 藤原 淳



岩手県人初の文化勲章受章者である郷土の偉人、田中館愛橘博士が安政3年(1856)、この二戸市(旧福岡町)に生を享けてから、今年で160年を迎えます。

博士の顕彰活動が続ける田中館愛橘会におかれましては、この記念すべき節目の年に合わせて博士の業績顕彰の一環として博士の銅像建立の気運が高まり、平成26年、田中館愛橘会を中心とする実行委員会が組織され、これまでの2年間にわたり銅像建立実現に取り

組んでこられました。

本日ここに、落成除幕式を迎えられましたことは、誠に意義深いものであり、関係各位のこれまでのご努力、並びに物心両面において、多大なるご協力をいただいた多くの市民の皆様に対し衷心より感謝と敬意を表するものであります。

博士は、日本における物理学の基礎を築くとともに、日本式ローマ字表記の創案、メートル法の普及や航空機の基礎研究による日本の航空学の発展に寄与するなど多くの輝かしい実績を残されました。また、重力、地磁気、地震、度量衡、航空などの国際会議にも数多く出席し、世界にその名が知られたことは、二戸市民の世代を超え、深く誇りとするものであります。

この度披露された二戸市名誉市民・田中館愛橘博士の銅像が、二戸市のシンボルとして、今後末永く市民の皆様にあいされ、親しまれるものとなることを祈念し、田中館愛橘博士銅像落成をお祝いする言葉といたします。

田中館愛橘博士像を制作して

新制作協会会員 田 村 史 郎

小学校の教室の黒板の上に、勲章を着けた愛橘博士の写真が掛けてあったのを覚えています。博士の業績はあまり覚えていませんが、ただ田中館愛橘という名前と穏やかな笑顔の写真ははっきりと記憶にあります。

あれから 60 年近く過ぎ、縁あって遠い懐かしいその愛橘像を制作することになりました。制作にあたって愛橘博士の多くの資料を目にし、また愛橘会の方々のお話を伺い、数多くの研究・業績、そして愛橘博士の人柄を知ることができました。

一般に岩手県人は、宮沢賢治の雨にも負けずにあるように「ほめられもせず苦にもされず、いつも静かに笑っている。」と、私を含めこういう人が多いように思いますが、愛橘博士の向学の精神のたくましさ、そして数多くの国際会議へとその行動力はどこから出てくるのかと驚かされます。

愛橘像の制作にあたり愛橘会の富田先生のお話から、福岡町民とりわけ子供たちに「愛橘じっちゃん」と慕われたという愛橘博士。勲章を身に着けた偉業を称える像より、いつの時代にも語り継がれるような、子供たちの輪の中に入りお話を聞かせる好々爺の像のほうが望ましいということで、銅像としてあまり例がない、両手を掲げ子供たちを呼び寄せるような、或いは子供たちを包み込むような像を考えました。

制作に四苦八苦しながら、昔、小学校の黒板の上に掛けてあった愛橘博士の写真を改めて見ると、なんとやさしさに溢れ、目は生き生きと、歴史を重ねた人間性までも表出したすばらしいポートレートであったとつくづく思い知らされ、像全体を簡潔にしながらも、そのイメージを崩さぬよう、それだけを心掛けて制作を続け、健康を気にしながらも支障なく終えることができました。



制作にあたりご助力戴きました顕彰銅像建立実行委員会の久慈実行委員長、田中館愛橘会の工藤会長をはじめ会員の皆様、わざわざ遠い神奈川のアトリエまで訪ねて来られた建立実行委員会副委員長の小保内様、愛橘会事務局長の中村様に感謝申し上げます。制作の報告と致します。

平成 28 年 5 月

愛橋先生銅像お目見え

二戸市の実行委、生誕160年記念

二戸市出身の世界的物理学者田中館愛橋(1856～1912年)の銅像が完成し命日の21日、同市石切所の市シビックセンター前で落成除幕式が行われた。銅像は建立実行委(委員長・久慈浩二戸市商工会長)が生誕160周年を記念して制作。ローマ字やメートル法の普及などに貢献した郷土の先人をたたえ、顕彰活動に役立てる。

講義後のしぐさ再現

「顕彰活動に役立てて」

青空の下、顕彰団体「田中館愛橋会」の関係者ら約150人が出席。工藤武三会長は2014年10月の実行委発足からの経緯を振り返り、市内外から寄せられ

一戸町出身で東京造形大の後などに「分かったぞろ美術学科の田村史郎講師がう」「どっとはらい」と声銅像を制作。見学者と同じ高に発声したという博士の目線を意識し、高さは台座しぐさを再現した。も含め約2分に抑えた。両 除幕式後の祝賀会で、建手を広げたポーズは、講義立実行委が二戸市に銅像を



た約1300万円の寄付などに感謝し「博士は今もわれわれの中に『生きている』と実感した2年間だった」と述べた。



生誕160年を祝い、建立された田中館愛橋像

寄贈した。久慈委員長は「今の子どもたちにとって、愛橋博士の活躍は実感が乏しい。郷土の誇りへの理解が進むよう役立ててほしい」と願いを込めた。同実行委は愛橋博士の活躍を漫画で伝える冊子1万部も製作中。秋までに完成し、市内の小中学校に配布する予定。同市は銅像建立を記念し21、22の両日、同センター内の田中館愛橋記念科学館と福田繁雄デザイン館を無料開放する。



田中館愛橋博士の銅像建立を祝い、記念撮影する関係者

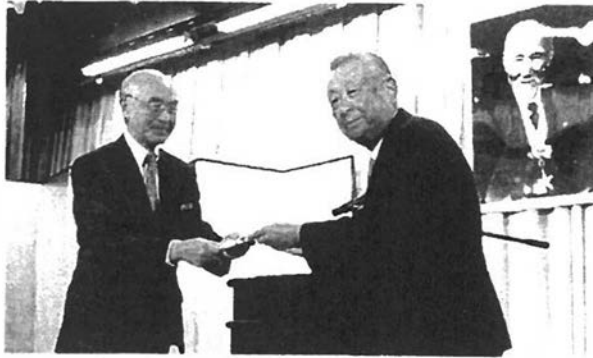
田中館愛橋 1856(安政3)年に陸奥国の福岡(現二戸市)で南部藩士の子として生まれる。東京大卒業後に海外で電気学や磁気学などを学び、91年から同大教授として研究、指導に努めた。地震や地磁気、航空など幅広い分野で活躍し、99年には水沢緯度観測所(現奥州市)を設立。研究以外でもメートル法やローマ字の普及に尽力した。1952年に95歳で亡くなるまで、約70回の国際会議に参加。国際連盟の会議ではアインシュタインやキュリー夫人らと椅子を並べた。44年文化勲章。2014年二戸市名誉市民。

郷土の偉人 漫画に

生涯・功績を若い人に

顕彰団体出版 1800 部、市へ寄贈

二戸市出身の世界的物理学者田中館愛橋（1856～1952年）の顕彰団体田中館愛橋会（工藤武三会長）は、郷土の偉人の生涯と功績を伝える漫画「日本の物理学の父 田中館愛橋」を出版した。12日に市内のホテルで記念式典を行い、関係者約90人が「悲願の漫画化」を祝った。式典では約1800部を同市に寄贈。市は小学校4年生から中学3年生までに配布し、先人教育に役立てる。



鳩岡矩雄教育長に漫画の目録を手渡す久慈浩委員長（右）

漫画はA5判、モノクロ76頁。愛橋の幼少期から晩年までを全7章で紹介する。漫画部分に続き、補足文章や資料写真を交互に挟み、児童生徒の関心と理解を促す内容に仕上げた。

「日本物理学の父」と称される愛橋は、日本の地震学や地磁気観測、航空工学の先駆け。

メートル法やローマ字の普及にも取り組み、多くの国際会議に国の代表として出席した「国際人」の顔も

二戸出身・田中館愛橋



伝記漫画「日本の物理学の父 田中館愛橋」の表紙

持つ。

同市では中学生の海外派遣研修事業を愛橋ゆかりの英国グラスゴーで行うなど、その足跡をたどる事業にも力を入れる。没後60年が過ぎた今、親しみやすい内容の漫画は若い世代へ伝えていく手段として期待さ

れていた。

5千部出版。制作費約200万円は5月に愛橋の生誕160周年事業で銅像を建てた顕彰銅像建立実行委（久慈浩委員長）、二戸ロータリークラブ（佐々木裕子会長）の寄付金を活用した。鳩岡矩雄教育長に目録を

手渡した久慈委員長は「漫画を通じて、理科が好きな子どもが増えることを願った博士の思いや心に触れてほしい」と期待。愛橋会の工藤会長は「郷土二戸市の発展と、地域貢献の一助となることを切に願う」と思いを寄せた。

6 月 25 日(土)にシビックセンターにて第 31 回田中館愛橘会総会が開催されました

田中館愛橘会新役員名簿

会 長 / 工藤 武三

副会長 / 小保内道彦 久慈 浩 菅原 孝平 小松 務

理 事 / 大西 武夫 國分巖士郎 山本 茂 田中 利見 佐々木裕子

生内 雄二 小野寺則雄 丹野 明法 黒澤 一史 富田喜平司

中村 誠 田代 博之 田中 勝則 内沢 真申 中奥 孝宏

菅陽 悦

監 事 / 馬場 正弘 丹野 国輔

顧 問 / 丹野 幸男

事務局 / 中村 誠

〈第 1 号議案〉平成 27 年度事業報告

①田中館愛橘像建立事業の推進

愛橘像建立にあたり実行委員会の実務を司り事業を推進した

多くのみなさんのご協力をいただき、5 月 21 日シビックセンター前にて盛大に

「田中館愛橘像」除幕式がとり行われました

②会報の発行

③田中館愛橘博士の事績調査研究

ア 私費留学説を検証する 愛橘会副会長 菅原孝平

イ 博士の年表と事績の併記資料の作成 除幕式次第に掲載

④講演会の開催 総会時 講師ハンス・ヨアヒム・クナウプ氏

⑤総会時に金田一歌の集いの皆さんによる献歌

⑥「マンガ田中館愛橘伝」の出版の準備が進んでおります

平成 27 年度田中館愛橘会決算書 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

収入 の部

科 目	本年度予算額	本年度決算額	比 較	摘 用
繰 越 金		152,558	152,558	
会 費	549,000	387,000	▲162,000	
雑 収 入	33,000	53,000	20,000	(ク氏 50,000 円、他)
予 備 費	152,558		▲152,558	
合 計	734,558	592,558	▲142,000	

支出の部

科 目	本年度予算額	本年度決算額	比 較	摘 用
会 議 費	250,000	10,722	▲239,278	予算に銅像建立に伴う諸費用
総 会 費	130,000	110,628	▲19,372	
講 演 会 費		50,000	50,000	講師料 50,000 円
頭 彰 活 動 費	0	50,000	50,000	科学研究発表会賞品
会 報 印 刷 費	80,000	40,000	▲40,000	
事 務 消 耗 品 費	45,000	45,030	30	予算に科教研賞品含む
通 信 費	45,000	39,568	▲5,432	
事 務 局 費	120,000	120,000	0	
予 備 費			0	
振 替 手 数 料	15,000	14,370	▲630	
交 際 費			0	
合 計	685,000	480,318	▲204,682	

収入合計	支出合計	余剰金 = 次期繰り越し金
592,558	480,318	112,240

別途積立金

銅像建立実行委員会	当初活動資金として出金の戻し	220,000
-----------	----------------	---------